



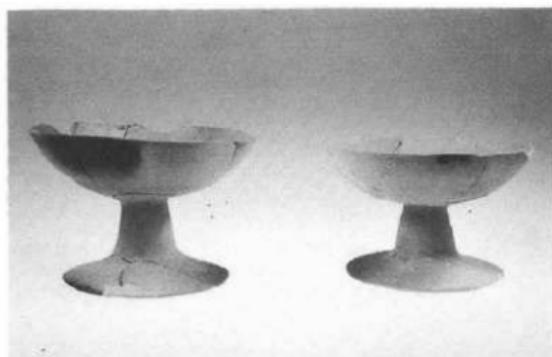
11号住居址  
出土遺物

図版 162

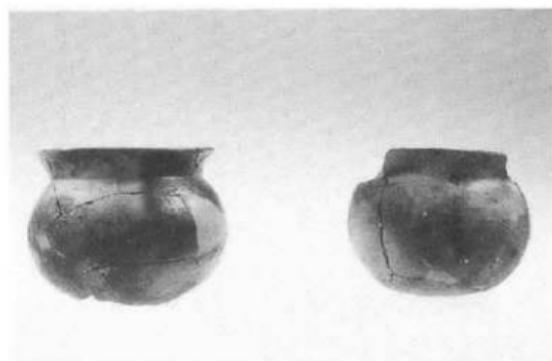


14号住居址

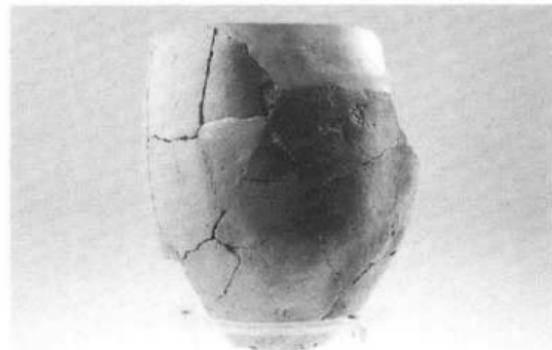
出土遺物



14号住居址  
出土遺物



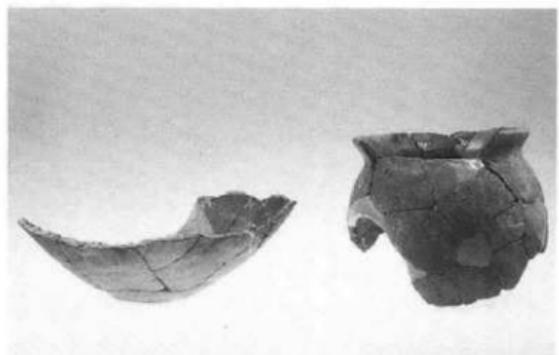
同上



18号住居址  
出土遺物

図版 164

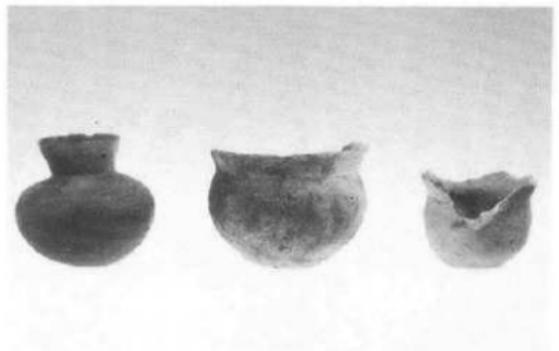
19号住居址  
出土遺物



20号住居址  
出土遺物

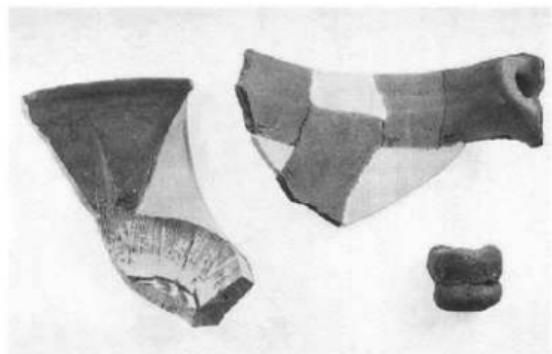
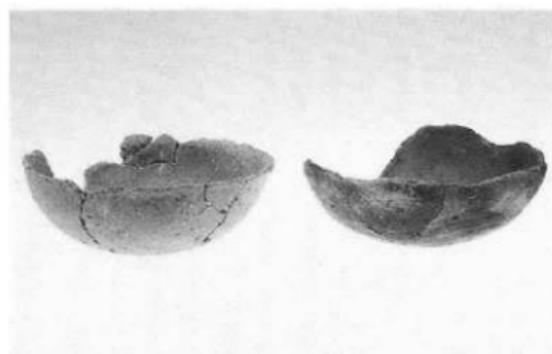


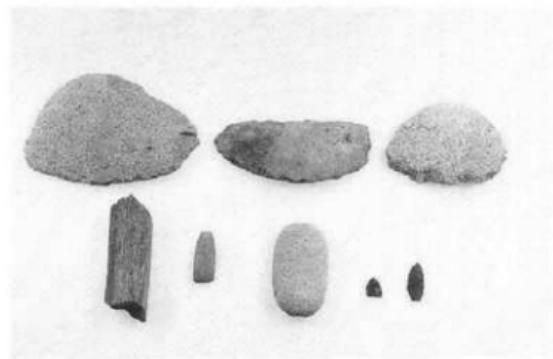
同上





20号住居址  
出土遺物





第4地点遺構外  
出土遺物



## 中村中平遺跡における自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

## はじめに

中村中平遺跡（長野県飯田市伊賀良所在）は、伊那盆地南半分（下伊那地域）に位置する（図1）。本地域の地形・地質の概略は、松島（1988）によると、次の通りである。下伊那地域はその中に天竜川が流れ、天竜川より東側を竜東地域、天竜川より西側を竜西地域と呼ばれる。竜東地域には段丘地形が発達し、その段丘より山地側は伊那層群が分布する丘陵地帯となる。竜西地域は、木曾山脈の山麓部に形成された新旧の数多い扇状地群で占められており、それらの扇状地を開削した段丘が複雑に分布する。本遺跡は、中央アルプス南端に発達した扇状地上に立地しており、主に縄文時代後期後半から晩期中葉までの遺構・遺物が検出されている。

今回の自然科学分析調査では、遺構の構築時期について検討するために放射性炭素年代測定を行なうとともに、本遺跡周辺の古植生について検討するために花粉分析を実施する。

## 1. 試料

分析試料を表1に示す。放射性炭素年代測定試料は、弥生時代後期の堅穴住居址の覆土から検出された炭化物2点について実施した。

花粉分析は、VI b層・V c層・IV a層・II a層から採取された5点について実施した（表1・図1）。土性は、各試料とも暗褐色～黒褐色を呈した砂質シルトあるいは砂混じり粘土質シルトであり、いわゆる「黒ボク土」と呼ばれる土壤である。

表1. 分析試料一覧

試料名（番号）	試料の質	層位	時代性
1	黒褐色砂質シルト	II a	縄文時代晩期中葉
2	暗褐色砂混じり粘土質シルト	IV a	縄文時代後期終末ないし 晩期初頭？
3-1	黒褐色砂質シルト	V c	縄文時代後期後半
3-2	黒褐色砂質シルト	V c	"
4	黒褐色砂質シルト	VI b	時代時期不明
NND884 25住	炭化物	住居址覆土	弥生時代後期
NND884 25住P1	炭化物	住居址覆土	"

## 2. 放射性炭素年代測定

### (1) 測定方法

測定は、学習院大学放射性炭素年代測定室の協力を得た。なお、年代値の算出にはLIBBYの

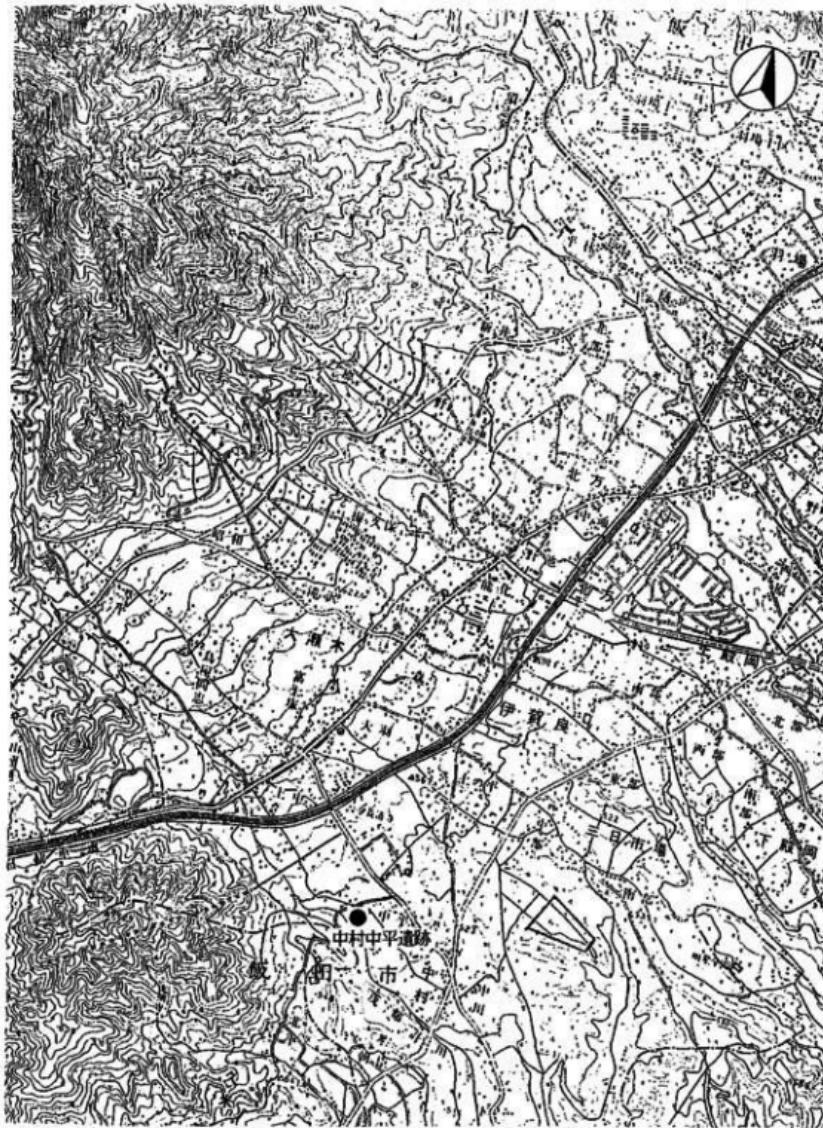


図1 遺跡の位置（添付資料に基づく）

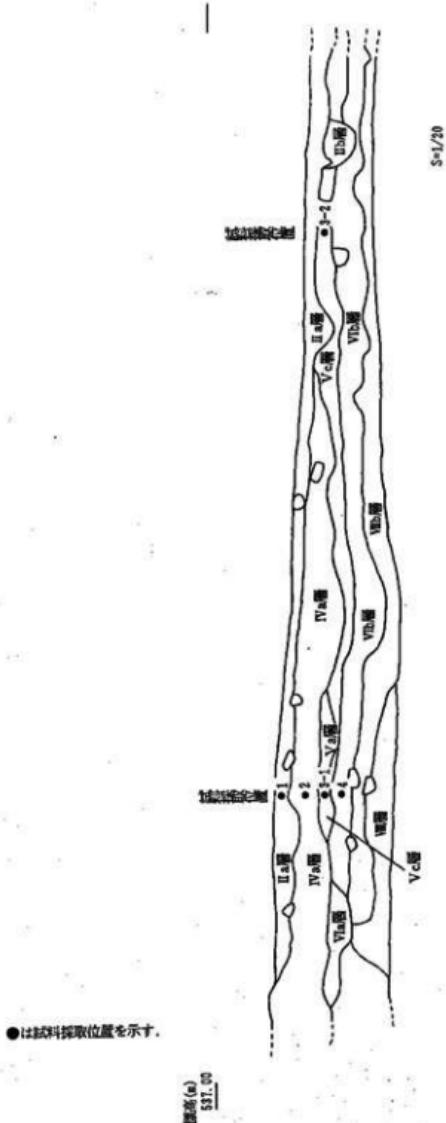


図2 花粉分析試料採取位置の土層断面図

半減期5,570年を使用した。

## (2) 測定結果

測定結果を表2に示す。

今回得られた年代値は、住居址の構築年代より古い。この要因については、試料中に古い放射性炭素が取り込まれたのか、あるいは本遺跡が扇状地上に立地することから、上流域からの流れ込みにより弥生時代以前の炭化物が混入した可能性もある。

表2. 放射性炭素年代測定結果

試料名	質	年代値（1950年からの年数）	Code No
NND884 25住	炭化物	3010±90y. B. P. (1060 B. C.)	Gak-17176
NND884 25住P1	炭化物	2930±100y. B. P. (980 B. C.)	Gak-17175

## 3. 花粉分析

### (1) 分析方法

花粉・胞子化石は、湿重約10gの試料についてKOH処理、重液分離（ZnBr<sub>2</sub>：比重2.2）、HF処理、アセトトリシス処理の順に物理・化学的な処理を施して、試料から分離・濃集する。処理後の残渣をグリセリンで封入し、プレパラートを作製した後、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査しながら、出現する全ての種類（Taxa）について同定・計数を行う。結果は同定・計数結果の一覧表として表示する。表中で複数の種類をハイフン（-）で結んだものは、種類間の区別が困難なものである。

### (2) 花粉化石の産状

結果を表3に示す。花粉化石の検出個体数はいずれも少ない。さらにわずかに検出される花粉化石も保存状態が悪く、外膜が溶けて薄くなっていたり、また壊れていたりする。検出される種類は、木本花粉がクマシデ属-アサダ属、草本花粉がヨモギ属・他のキク亜科、シダ類胞子の合計4種類である。

今回、堆積物中からわずかに検出された木本類のクマシデ属-アサダ属、草本類のキク亜科（ヨモギ属を含む）は、当時、本

表3. 花粉分析結果

種類(Taxa)	試料番号	1	2	3-1	3-2	4
木本花粉						
クマシデ属-アサダ属	-	1	-	-	-	-
草本花粉						
ヨモギ属	1	-	-	-	-	-
他のキク亜科	1	-	-	1	-	-
不明花粉	-	-	-	-	-	-
シダ類胞子						
シダ類胞子	2	1	-	-	-	-
合計						
木本花粉	0	1	0	0	0	0
草本花粉	2	0	0	1	0	0
不明花粉	0	0	0	0	0	0
シダ類胞子	2	1	0	1	0	0
總花粉・胞子数	4	2	0	2	0	0

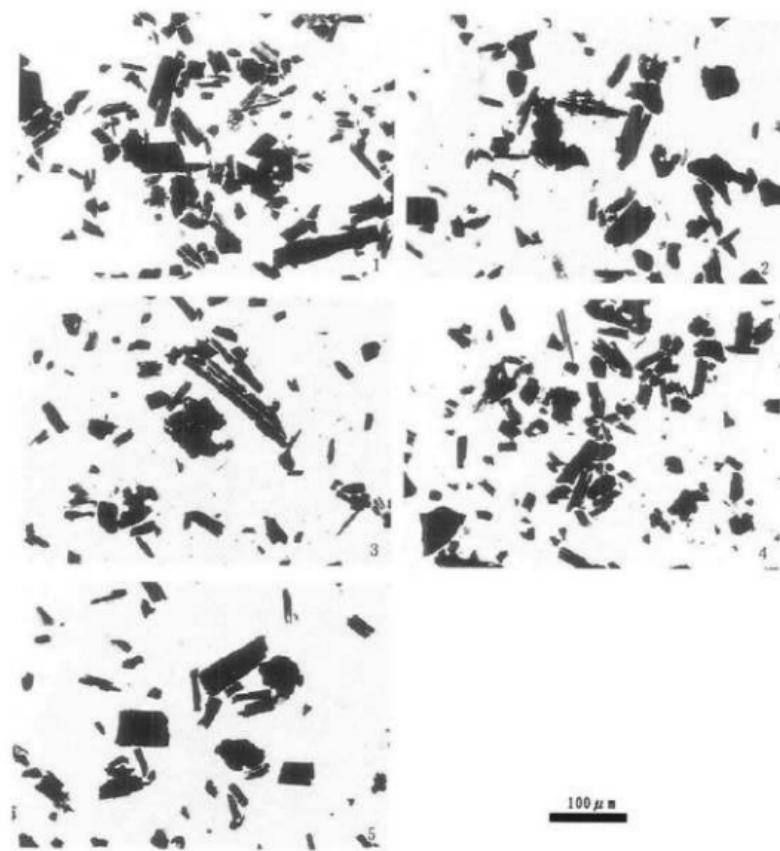
遺跡点の周辺に生育していた可能性がある。ただし、花粉化石の分解する度合いが種類により異なるとされていること（中村、1967：徳永・山内、1977）、花粉化石の検出個体数が少ないとなどを考慮すると、今回の分析試料の花粉化石群集は歪曲しており、当時の植生を充分に反映していない。したがって、本分析結果より本遺跡周辺の古植生について検討することは不可能といえる。

本遺跡が扇状地上に位置することを考慮すると、堆積物中の花粉化石は好気的な堆積時・堆積後好気的な環境であったために、土壤微生物の影響や酸化により分解・消失した可能性が高い。このような堆積物を分析対象試料とした場合には、好気的な条件でも花粉化石より比較的良好に保存される植物珪酸体の組成を明らかにして、試料採取地点周辺のイネ科植物相を検討する調査方法もある。ところで、長野県野尻湖底およびその周辺の堆積物を対象とした研究によると、完新世後期では冷温帯林を構成要素であるブナ属やコナラ亜属の花粉化石が多産するとされている（野尻湖花粉グループ、1984・1987・1990：野尻湖花粉グループ・野尻湖植物グループ、1980）。これに対して、本地域周辺の古植生は、飯田市内の田畠遺跡における自然科学分析調査結果によると温帶性の針葉樹林からマツ二次林に変化したことが明らかにされつつある（パリノ・サーヴェイ株式会社、未公表）。ただし、本地域周辺の古植生に関する資料が少ないので、詳細な解析はこれから課題とされる。したがって、今後は低湿地の堆積物を対象にした分析調査による古環境解析を行って、下伊那地方の植生史を明らかにする必要がある。

#### ＜引用文献＞

- 松島信幸（1988）伊那盆地、日本の地質4 中部地方I、第4章第四系、内陸地域、日本の地質「中部地方I」編集委員会編、P.159-161、共立出版株式会社。
- 中村 純（1967）花粉分析、古今書院、232p..
- 野尻湖花粉グループ（1984）野尻湖層および貫木層の花粉化石群集、野尻湖の発掘3、地団研専報、27、P.83-106.
- 野尻湖花粉グループ（1987）下部野尻湖層ⅢおよびIVの花粉化石群集と上部野尻湖層の花粉層序学的対比、野尻湖の発掘4、地団研専報、32、P.73-93.
- 野尻湖花粉グループ（1990）貫木層および下部野尻湖層Ⅲの花粉化石群集と上部野尻湖層〔アジシオ〕火山灰層堆積以後の古環境変遷、野尻湖の発掘5、地団研専報、37、P.61-76.
- 野尻湖花粉グループ・野尻湖植物グループ（1980）野尻湖層の花粉化石と植物遺体、地質学論集19、P.101-130.
- 徳永重元・内山輝子（1977）花粉・胞子、化石の研究法、化石研究会編著、P.50-73、共立出版株式会社。

図版1 プレバート内の状況写真



1. 試料番号 1
2. 試料番号 2
3. 試料番号 3 - 1
4. 試料番号 3 - 2
5. 試料番号 4



報告書抄録

ふりがな	なかむらなかだいらいせき							
書名	中村中平遺跡							
副書名	土地改良総合整備事業に先立つ埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	佐合英治・吉川 豊・馬場保之・吉川金利・渋谷恵美子・福澤好晃・下平博行							
編集機関	長野県飯田市教育委員会							
所在地	〒395 長野県飯田市上郷飯沼3145 TEL 0265-53-4545							
発行年月日	西暦1994年 3月24日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ○' ″	東経 ○' ″	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
なかむらなかだいら 中村中平	いいだしなかむら 飯田市中村	市町村	遺跡番号	35° 28' 50"	137° 47' 35"	平成4年 12月8日 ～同5年 2月12日	10,820m <sup>2</sup>	土地改良 総合整備 事業(圃 場整備)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
中村中平	集落跡	縄文後・ 晩期	竪穴住居址	5軒	土器・石器 450箱	・地床炉を伴うと考えられる方形の配石遺構		
			配石址	10基	土製耳飾り 約700点	・縄文時代後期後葉～晩期前葉の再葬墓群 ・大量の土製耳飾りを保有する遺跡 ・後期後葉土器群の良好な資料		
			配石墓	11基	石棒・石劍 約80点			
					土偶 約50点			
		中期	竪穴住居址	21軒	石冠 2点			
			方形柱穴列	3基				
			竪穴住居址	7軒				
		弥生後期 古墳後期	竪穴住居址	13軒				
			掘立柱建物址	5棟				
		奈良 中世	掘立柱建物址	1棟				
竪穴住居址	5軒		他					

---

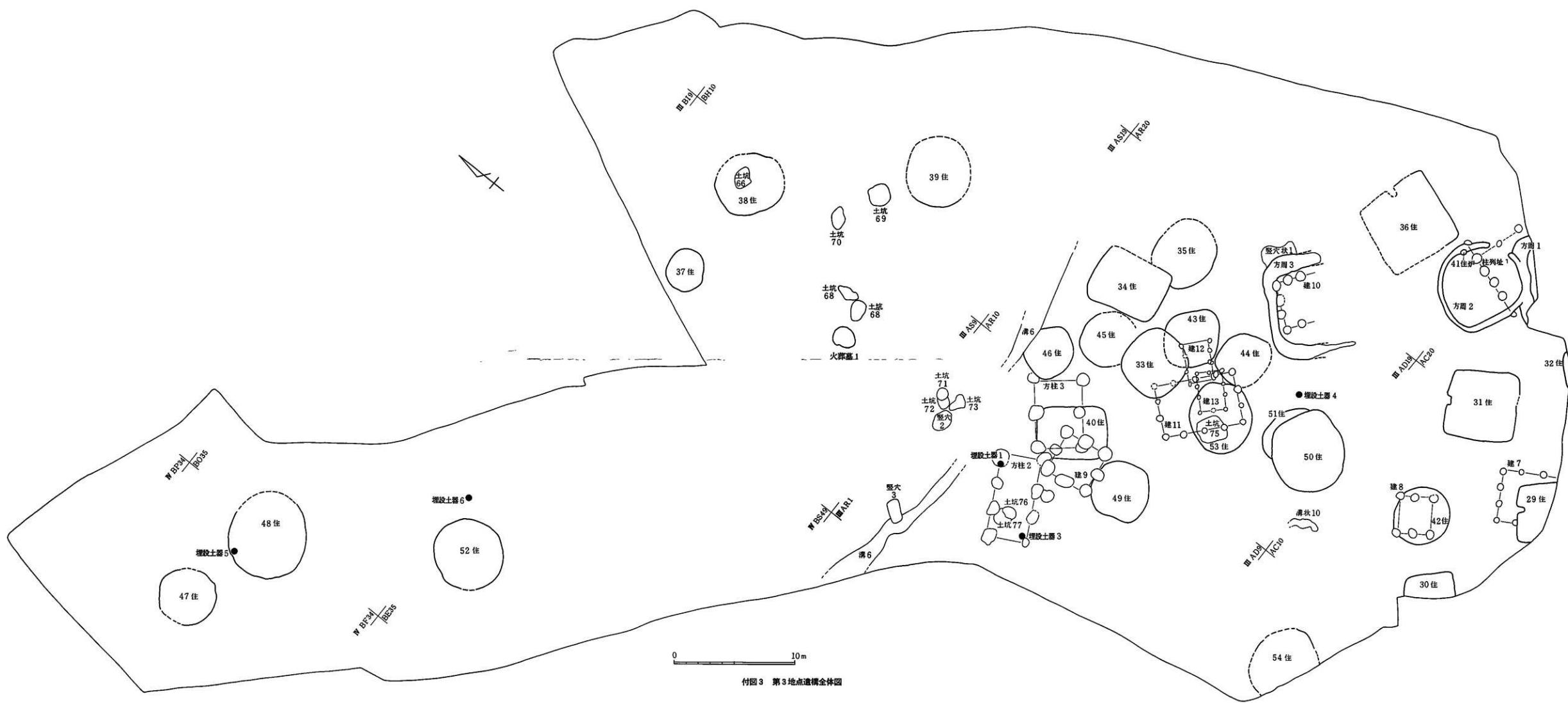
なかむらなかだいらいせき  
**中村中平遺跡**

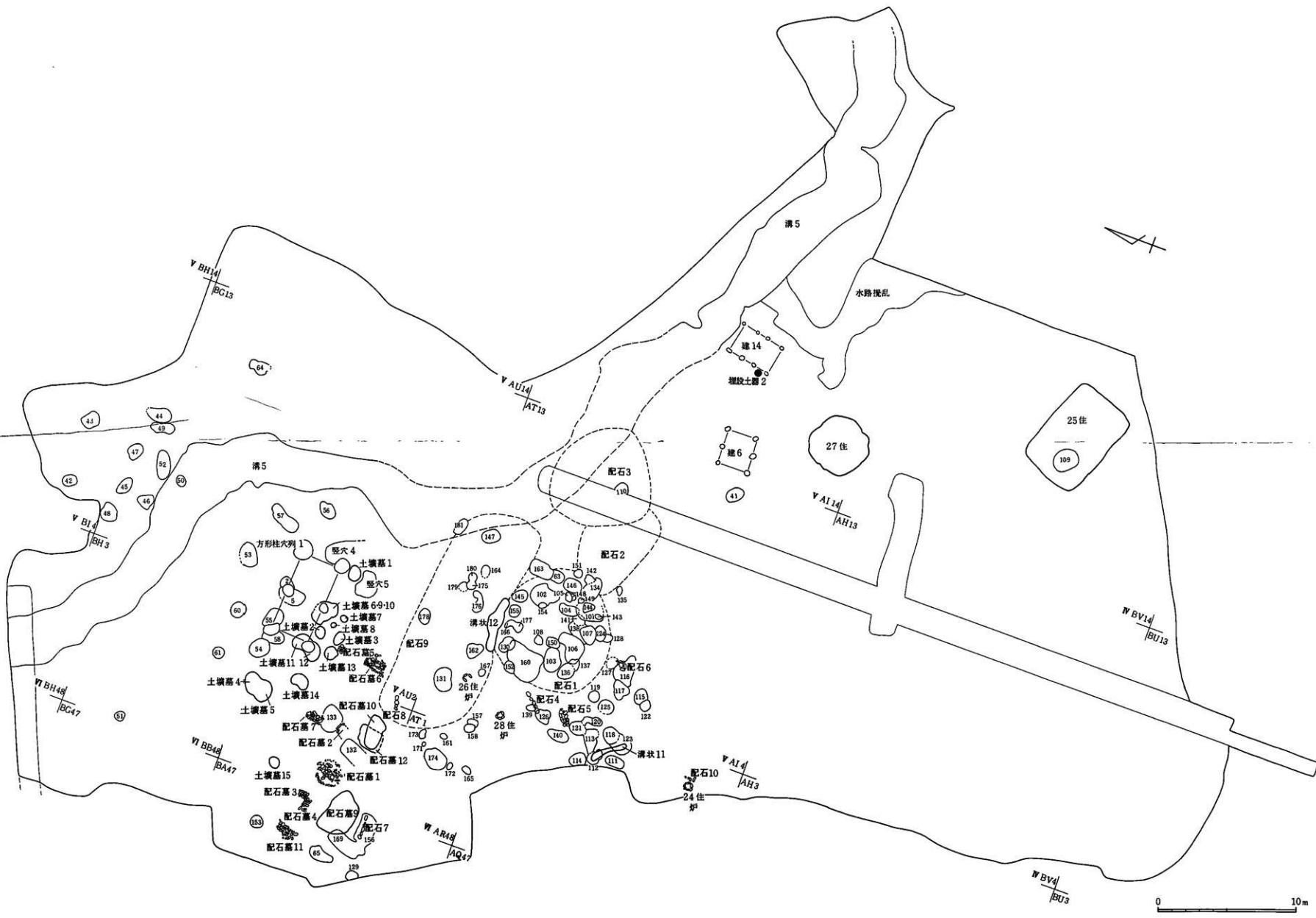
土地改良総合整備事業に先立つ  
埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書

平成6年3月発行

編集・発行 長野県飯田市上郷飯沼3145  
飯田市教育委員会  
印 刷 龍共印刷株式会社

---





付図2 第2地点遺構全体図

